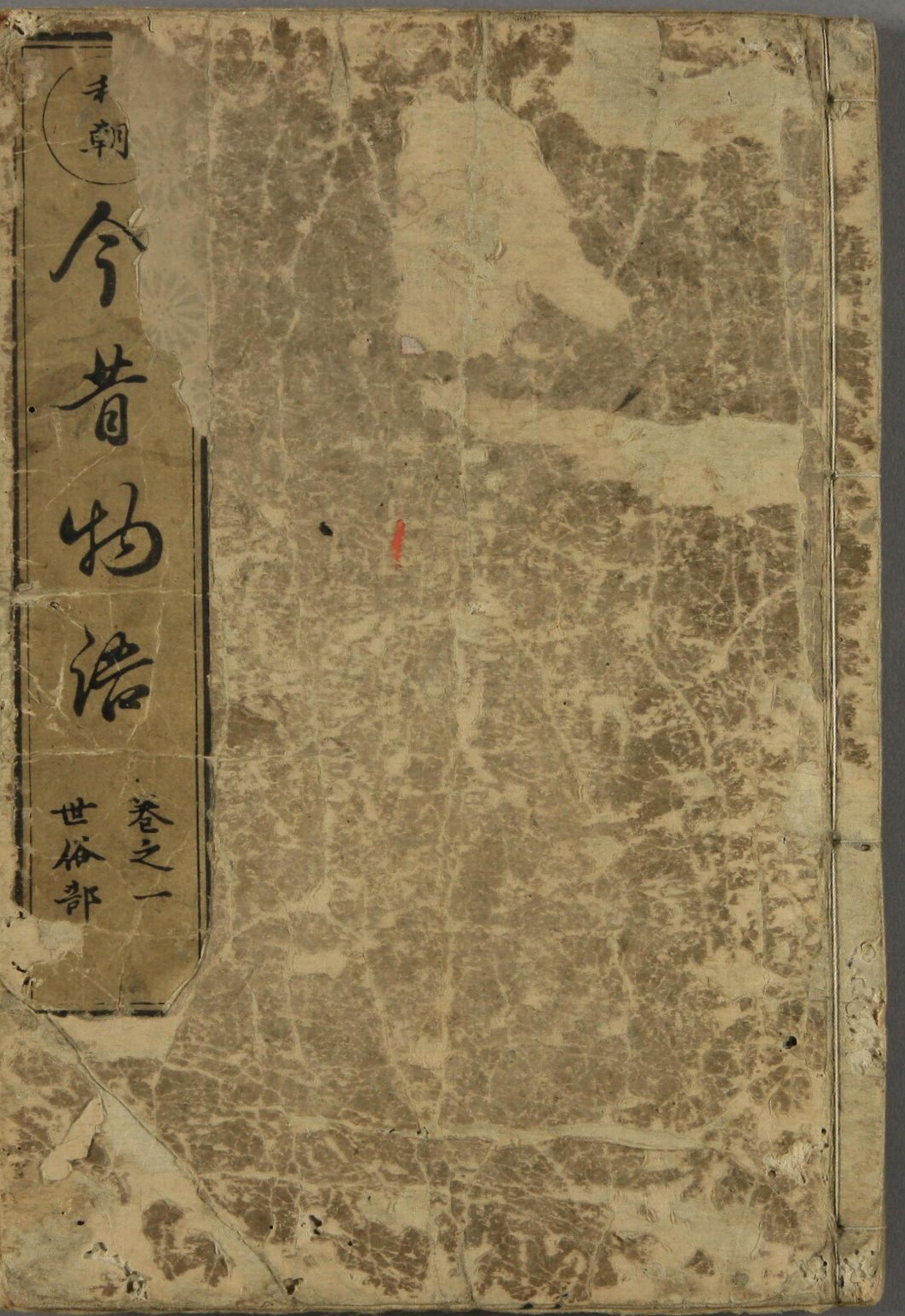


2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8





空治大納言
源隆國卿撰

井澤先生考訂纂註

中華書局影印

和朝部前編十五卷

京師書林柳枝軒新鑄

考訂今昔物語叙

うめみす。源隆國とす。人
あく。されば。破砌臺。ひまや。西宮
た大。村高明公乃孫。アキラ。權大納言
俊賢。の。次男。アリ。後。冷泉臺に。つ
ます。まよて。寵遇。アリ。アリ。アリ。
人を。ゆき。ちあわせ。て。せ。け。ま

ふゆらと紙團子。あればじと
あ。それをさう。もう秋だ。又
ばくちふるをうつとせば。字活の
別業うわじと。道のうりゆふ。
茶店とくゆ。往來の人をまわして。
あきと物語をせんがて。本朝乃故
事天竺二農旦かる難詰など。冥み

ゆゑ。書記して。経うそこげく乃
冊子やまと。其は。小。今著と
出そくしゆく。これと物語の号
とも。作者の名はよひ。又字活
物語とも。嘗て。もとと。後。其のと
も。うへり。ひへり。字活拾遺と
よどみ。もとれす。拾え。ひへり

梓あづまみらうと。先へ書へひよどり刻し
てあるひど。編輯へんしょくよりこの。收
百年ひゃくねんみなし。いわゞば。謄寫とうしゃもじく
きさなうと。文字脱落だつらく。趣意
わら筆あざなとよの多す。舊記きゅうきのか
くの。ごくすれ。詠うてれを歌う
や。京師けいし書林柳枝軒りゅうじけん。予示

はあく。すゞし。とふこぬ。予
とよび書か乃よとく。れるとた
せ。室むろより。來うち。所ところも
とあるひど。愚意ぐいとくも。あ
ちれをゆく。かく思おもく。差
謬されなくして。ふ

享保五年五月朔日

肥後隈本 井澤節長秀

考訂今昔物語凡例

一 ひ書ひ三十巻。中より六十巻とし。
其六十巻は日本一部三十巻。天竺一部十五巻。

震旦部十九巻。合て六十巻をす

一 ひ書編輯年々々々。體字をじくふるじて、
文字を改めたり。あくびひ脱して。趣意りしが
たりのあり。あるびひく。舊記實錄と接て。
これを正し。従く説を加へ。事證をす。闕て補
ぐ。もとの。古文と有る。

一 ひ書み載ふと。かねん。世系名譜。舊記實錄

アラムベラの下。其下に詣して。觀窓みたる處
一筆書みのとす。出自然とあらわす。筆勢
拂ぬふとあり。藤島忠厚のみとも。類也。
一人をすく二人とす。秦室寛達がき
ぐひぢく。二人とすく二人とす。權中納
敷忠。土清門中納言の。ひき。各系圖實錄
をみて。これを訂と

一
ひ書。舊本
能名とある。今
いわは
呂波
字
を記す

一は書うて載ろふの事。著角集。字
おもむくやうふべ。ちやくと記す。

一ひ書 怪異傳。あくべの迷るところ。うきよの
ごくれき。アラム人而殺よ。かはげ。ア
一ひ書 教矣。モウレ。却剣。ハジ。びがよ。田中ア都
ミナ美乃也。ナ立美と梓行と。直角
美と。天正末日。郭三十步をば。追て。それを
放。ア

宇治隆國系圖

○醍醐天皇

高明親王

賜源姓正二位左大臣
號西宮

俊賢

正二位

顯基

權中納言 徒三位

○隆國

初名宗國。叔爵任侍從之後。寛仁二年改名隆國。歷
仕而長元二年七月任參議。叔從三位。長曆元年十一月
叙從二位。長久三年九月任權中納言。康平四年二月辭退。

治曆三年二月三日任權大納言。此人性質肥大。而甚苦暑氣。故朝參之服。盛夏為納涼。屬趣宇治別業。構茶店於道傍。常招往還過客。使啜一甌之茗。聽其所談。或本朝故事。或天竺震旦雜話。悉皆抄訖。號今昔物語。或曰。宇治亞相物語。而後輯其所漏者。號之字治拾遺物語。實可謂修史之資也。承保元年正月辭仕。同四年七月九日卒。自承保四年至享保五年。六百四十一序歟。

隆俊

中納言
左中將

俊實

俊明

大納言

能俊

今昔物語全部六十卷

○日午部三十卷
○天竺部十五卷
○震旦部十五卷

内 日午部三十卷目錄

- 卷一 世俗傳
- 卷二 世俗傳
- 卷三 世俗傳
- 卷四 世俗傳
- 卷五 世俗傳
- 卷六 世俗傳
- 卷七 世俗傳
- 卷八 世俗傳
- 卷九 世俗傳
- 卷十 世俗傳
- 卷十一 世俗傳
- 卷十二 世俗傳
- 卷十三 怪異傳
- 卷十四 怪異傳

○卷十五 怨異傳

右十五卷 李保立年版行

○卷十六 惡行傳

○卷十八 惡行傳

○卷二十 宿報傳

○卷廿二 宿報傳

○卷廿四 佛法傳

○卷廿六 佛法傳

○卷廿八 雜事傳

○卷十七 惡行傳

○卷十九 惡行傳

○卷廿一 宿報傳

○卷廿三 宿報傳

○卷廿五 佛法傳

○卷廿七 佛法傳

○卷廿九 雜事傳

○卷三十 雜事傳

右十五卷 可追版

○自卷三十一至四十五 天竺部

○自卷四十六至六十一 震旦部

右三十卷 可追版

都合三國部全部六十卷 可逐年而樟行之

今昔物語 卷一

今昔物語 傷目錄

○世俗傳

- 一 北色大娘長谷雄中納言語
- 二 百済川成与飛彈工匠挑語
- 三 畏櫛寛蓮名畏櫛女語
- 四 袋丸上勁扇返男針返女語
- 五 行曲藥寮治病語
- 六 女行醫師家治瘡巡語
- 七 霊旦僧長秀素此期為醫師語
- 八 忠明治值毫者語

九 内磨右大臣家馬詔

今昔物語 傷部一

○世俗傳

一 北邊大臣長谷雄中納言詔

今りもくゆきた大臣とす人わくける。名と
信くぞひくら三代實錄曰左大臣從二位源朝臣信者嵯峨太上天皇之子源氏第一郎也。
系圖曰信左大臣正二位母廣井氏拾芥抄曰土御門北西洞院西左大臣源信公家
信誠天皇乃十の皇子なり。一條のゆきみとみゆきくふよ
よくて。ゆき大臣となしにす。よくばのすかん
がくまくゆくけくすくふ。まくし管絃乃道
さくそ。鶴きんみかしひくすく。新中寧しんじゆうとすび

ちく彈さう。あくまよ大船。ある夜氣は彈
す。曉^{あさき}ぐれひあくと。かくかくしたるの。年^とご
あくふ風^{かぜ}出^でて彈さし。我らもさうして
つみややがけりと。前^{まへ}り放^{はな}り隔^{はな}す
のよ。物のひくらゆみ^みとくれば。何^{いか}く
あくと見るもうる。長^{なが}一^い人^{じん}ぐらうる天
くもれニ三人あくと。殊^{こと}きうきうきう。太^ふ
くもくと見るもうる。長^{なが}一^い人^{じん}ぐらうる天
くもくと見るもうる。殊^{こと}きうきうきう。太^ふ
くもくと見るもうる。長^{なが}一^い人^{じん}ぐらうる天
くもくと見るもうる。殊^{こと}きうきうきう。太^ふ

奇異^かの微妙^{びめう}を車^{くる}

又中納言長谷雄^{ながたに}紀貞^{きじん}とひくらゆ性^せをゆく。世
にかくじよいたますます。其人門のあくとくろ
朱^{しゆ}衣^い大學寮^{だいがくりょう}の西^に門^{もん}より出^でて。少^{すこ}すすばく見^みえられ。昔^{むか}
との様^{よう}らしくあうが。文^{ふみ}を讀^よんでやぶるを有
く。長谷雄^{ながたに}これとて。我^わは異^か人と云ふて。
ゆきゆきとやんざくまくせうひうる。それ又奇
有^うのうちうじう。しきりゆくへうは奇異^かのまどり。
ゆきゆきとやんざくまくせうひうる。がくはく



ニ 百済川成本苑譚工匠挑詰

今へり百済の川成といふ繪師ありたり。文德

曰散佐從五位下百済朝臣河成本姓余後改百済○姓

實錄

氏錄曰百済朝臣步自百済國考慕王三十世孫惠王也

母

きじれと考て有る。淹歎なりしも。川成が去
てからら。同席堂の壁に絵し。川成が書たる也。
ちうふ川成は老いきよと逃げて。あらばひるひ
くらむ。すらりとまし。あるときあれど絵とやと
ひ詰してつゝ。年はつづいてはる信者の考み。と
てよびて。からでゆきとよとつよ。下絵が

いふ。やうれまよひわせ。も。おまうと。おまうと。
擱ちゆう。おととよびて。ひそひそうりて。川成圓
あ。けぬちうま車をりと。車底ととつあ。お
う。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
と。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
よ。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと
おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと。おとと

也。ば。川成。されど。ひきこもる。其童子。すかとんば。
紙圖。其形體。或人。遂。驗。或人。緋。以。赤。見。形客。川成。則。取。一
得。之。其機妙類。如此。

カタマリ。あらわす。其のまゝの。武道院。エ西。アリ。
ササニシキ。じたま。老さう。武樂院。ム。ナガシ。モ
ナガシ。エ西。川城。ト。ヤ。ヨ。ク。テ。各の。氣。ム。都。モ。ア
ム。ナガシ。エ西。川城。ヨ。シ。ム。一
向。蜀。乃。堂。ム。ハ。ク。ル。ウ。ル。ヤ。ム。ト。ア。ヌ。ク。ム。ユ。壁。ア
壁。書。ア。ル。セ。ク。ミ。セ。ク。ト。ツ。ム。川。城。ヤ。ズ。ト。エ。西。グ。ア。ル。約
ア。ル。ム。ガ。ク。ジ。ク。リ。小。さ。ん。堂。ア。リ。蜀。乃。戸。皆。

あそひ。エ函堂^{アシタウ}の内^{ナカニ}あると云ふ。川底
縁^{エク}よ上^{アガ}そ。南の戸^{トトロフ}とす。北戸^{ヒツ}と
闭^{スル}事^{モノ}を云^フ。それ戸^{トトロフ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と
戸^{トトロフ}と云^フ。而^ハ戸^{トトロフ}と云^フ。北の戸^{ヒツ}と
云^フ。且^ハ戸^{トトロフ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と
云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。
其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。其戸^{ヒツ}と云^フ。

定めく我とけんじうきうちとくとく。ゆうざらぬ。
まじく種ぐみよよぐべ。工西川成ぐ家よひて。ま
きふゆくひへくふ。け方め入りてとづよ。うねよ
あがみて。廊のむろ遣アをひめひれんば。門よ大
きからくわ黒く服。きくわくわくわくわく。くもん
車かえどく。工西やすしりびれおとそれ
らでうさんとく。川底ゆるくはめとせ。喰
すすうびほ工西いたぶやくととくとく。底
めくろみ。川底送アより影をけりて。已ゆく
あるわしが。まぐれとづよ。わぐくとうてんば

人よひあて。障ふにほん人の形を畫くわゆ。うあう
掌てけくわく通報。うわくとく。ニ人ゆく
り。ゆくまどりみやゆくわく。うのひく物くわくよ。
ひくのくわくとく。従へわくまくとく。うわく
はくとくとく

三 基櫛寛蓮を基櫛女語

今ハシテ六十代延喜の御時。基櫛實蓮作聖
勢當とつこ人乃僧。基泰よりくわくわく。以基聖寛蓮
也。太わわ倍四亭多度清きめのとく肥あの極為二人者大
きらぎりとく。大徳とく。後半とく。同首書
日橘良利字繁肥前國藤津郡大村人也出家號寛蓮為宇多院
殿上法師圍碁之堪能也。因爲基聖大徳延喜十三年五月五

日暮聖奉勅 作墓式獻之

（一）

（二）

（三）

（四）

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

（十五）

（十六）

（十七）

（十八）

（十九）

（二十）

（二十一）

（二十二）

（二十三）

（二十四）

（二十五）

（二十六）

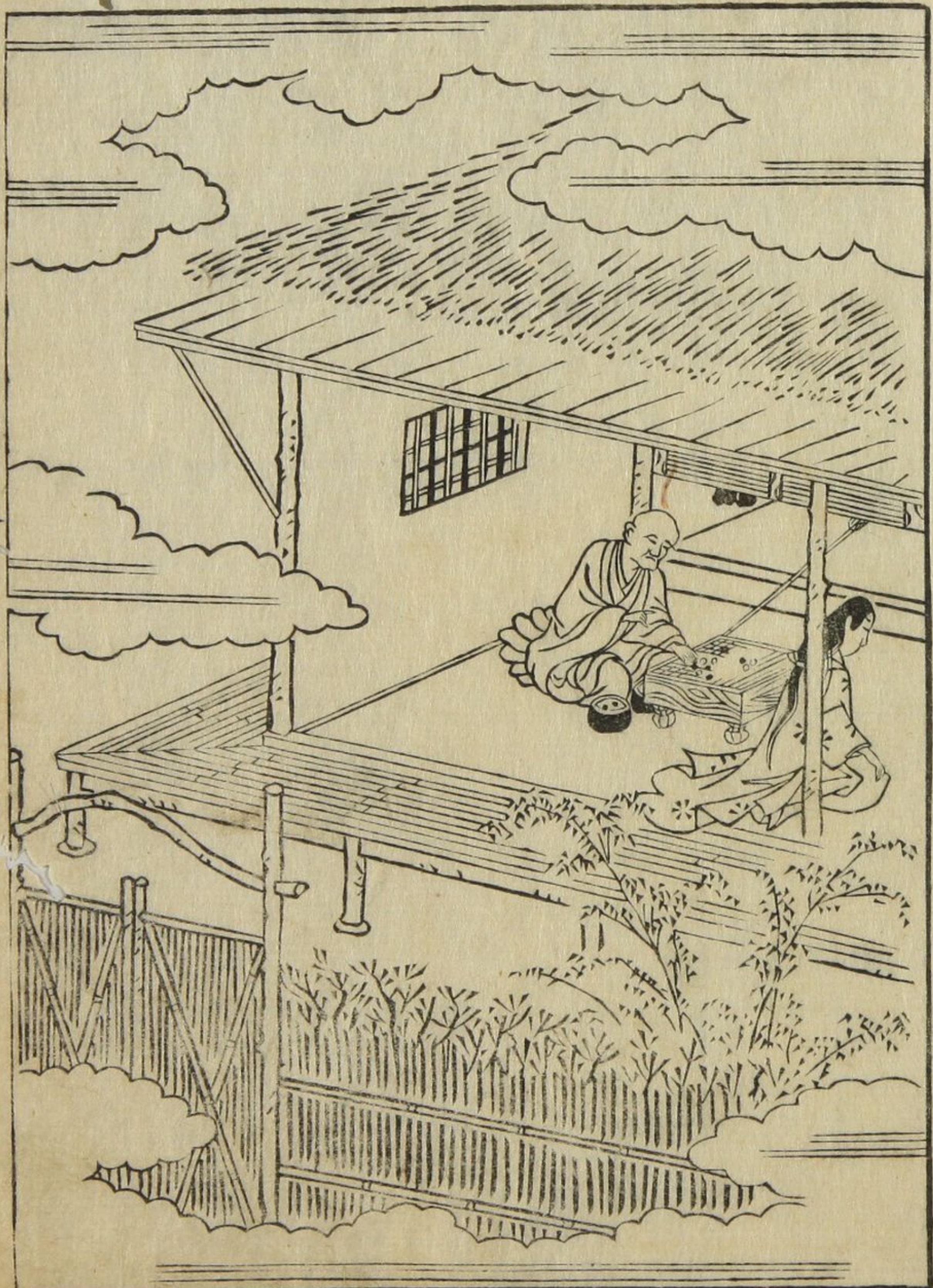
日暮聖奉勅 寶蓮の御ひつやへひびて。宇多多良の
敵とは師とてちよそんべ。常みゆくて墓のあそば
く。天皇もさりうてどりにあそび。うきよど
寶遠の先うなんゆくせうひう。孝子は金
乃沙村としき物うて。わざげけふ。天皇負
うきよと。宝を沙村としきりて。ゆきうむち
うれい。君を敵と人の勇うふゆかと。うごひ
くをうめく。本をなくたる。わざとて天皇負
うきよして。宝を沙村をしきりて出でる
あひがく。義敵と人を。逃げてうそとす

（一）寛蓮ゆくろううねをとつま。后御乃
お。投へんべ。敵と人の皆うう。寛までぬう
ゆく。うのらおよこねをほくうて。ねとぞうと
アレバ。おぬわくねをほくうて。金傳とれ
うう。ゆくをものぬくまく。おみあげつて。
まうとくらうて。大和寺の東を。二東。みある
殊勅寺とつまはくろうたうとく。古事談
聖主及基聖法師。本名金松と。賭物を令決園墓。或
みうちく。勝負か。或曰基聖勝まで沙村と。賭て退出之
間。花人をみて。近づく。かよゆく。年來一堂と建ての宿。候
うれと思ひて。ゆく早く此賭物をりうて。をまとまん。

房參ては若うらうとされまくせりすとくも。あそと
追歩て翌日一丈堂を建立にあむひのほ勸堂と云ふ是也

天官寺

みくくゆゆくと。づきをさしよく。かくて常に
まくゆね。わう月内よりゆくまで。一條とも
にあまへゆくと。西乃大宮とぞくん。紹禪と
くろ女の童ねまくと。げあれど。室をまく童子
を。すじうてえのとくとくめ。まくと。を。あく
くらゆびとくとくとくとくとくとくとくとくとく
べきまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
ちくわくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
け。まくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく



して押立門の處あり。女をそそぎとつゝ。車
うちわすりうる。されば前より放せり。廣庭脇
板を乃平く。うん。おなよ難ゆひて。前載とあ
る。うくうて。がまどすと。賤の小をされど。
ゆえむて。候。うつやうを。寛達あらうと。いふ。
候。うげそ。どぞ。おそれて。う。どぞ。しの
り。空きくも。是難あら。秋のひかりに。春の
空ひくを。實達と。うれば。富山のゆ
ゆくも。おひづこ。うれめおらず。富山にて。せ

タとしへ。是難。はよ。うて。居る。女といふ。
ま今世ぬき。じかく。是難。擲。うて。や。ば。
うづく。や。かん。や。さり。く。え。ま。り。え。お
も。ね。く。そ。く。は。擲。う。て。け。く。人。が。す。擲。と
も。け。く。は。擲。う。て。け。く。人。が。す。擲。と
後。ゆ。て。あ。る。り。と。し。し。く。を。や。び。も。く。ま
う。と。あ。そ。じ。く。や。そ。是難。の。り。く。ら。く。よ
み。墨石。負。ひ。て。取。く。う。ろ。と。富。の。く。よ

人
さへれども。女房がつて。そろとおひそかに
あへづぞうと。さへいはく。おもへ擲せ。實蓮
基も。翁うらぢ。あく。あも。益公ひき。まそ
ろ。かくして。かく。かく。て。ん帳の。やうじよ。卷
教本の。やうじよ。かく。かく。かく。け。かく。
二。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。かく。

實蓮ふり。ざし。希有。小奇異。のまうす。人
はあ。で。変化の。者。な。ご。い。ぞう。ま。か。し。そ
き。こ。か。づ。う。れ。擲。人。あ。ん。や。さ。り。そ。く。よ。る。成
や。つ。く。も。皆。殺。う。れ。擲。る。づ。び。と。や。も。く。く
き。く。そ。れ。と。く。づ。う。と。ま。の。づ。く。も。や。く。る。よ。か。ず
く。り。ひ。く。ま。う。と。ま。の。づ。く。も。や。く。る。よ。か。ず
く。の。づ。く。も。う。と。お。し。そ。尻。わ。く。も。も。あ。く。ど。逃
出。く。た。和。ま。く。う。う。院。よ。ま。う。と。あ。く。く。れ。ま。る。そ
れ。づ。く。と。ア。キ。し。ば。院。も。く。れ。う。あ。ん。と。不。審
ぐ。を。ま。う。て。次。の。日。う。の。前。ア。ス。木。を。下。う。て。聚。

全蜀公詩卷之二

らまきなふ。其家アソトキア。さむ。お達師一人居
リ。昨日ちへやへ。あそびて向ひ。びあは。
み六日東京。あそびて。まく。人ありしが。あが
うかまく。まく。院乃ほの。う。其のり
まき。まく。人を。じ。まく。う。う。う。う。
往。あやと。向。よ。已。れ。う。う。う。う。う。
ハ。あはん。まく。う。う。う。う。う。う。う。う。
や。あはん。と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
ば。そのらへ。はは。きそ。う。う。う。う。う。う。う。
よ。と。圓。う。わやへ。う。う。う。う。う。う。う。う。

ひくと事あわゆるからああうんぐ

四
於凡上勁扇逐男針逐女諸

つとて奥カワむろづど一絃よすか。ひよくともうあも
さすら人をうき。ひざりまをかひしゆんとて。
袖めいへうけとねまをかうて草とつきをう。れ
ひとそ。まなびなどくうへつけとば。それとる人
はあやうきらひう。春邊ハナヘしこれをみて。たゞ感
じて。勁カタ臘カタラをうてあり。ひくひくそれとまえ
みはまこと。うふりどどるよのとあるとる
とき。めぐらはくへくわくせ

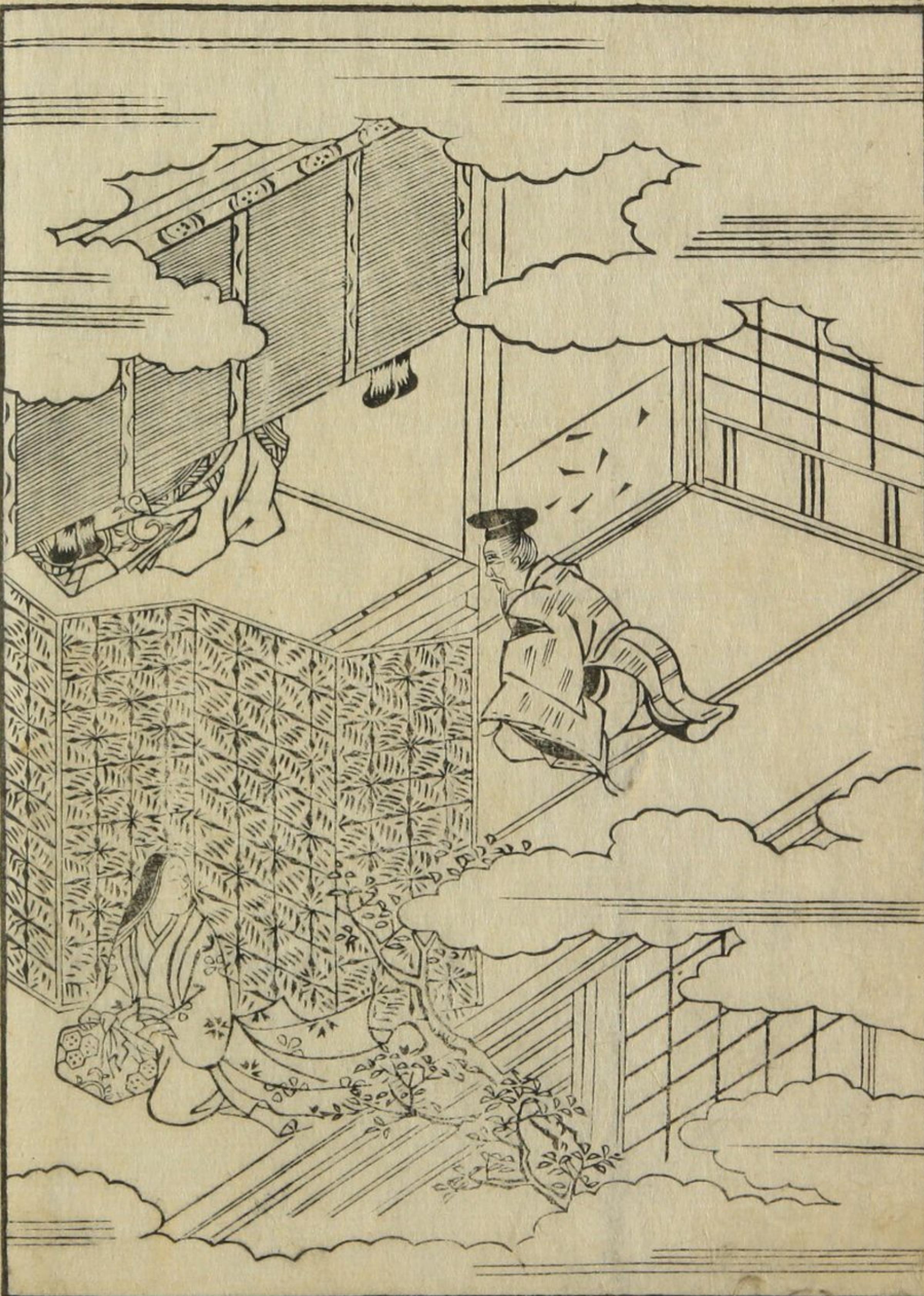
五 纏曲ウツモソシヤ樂竈ヨウトウ活病女語

今へしゆ一曲ハシモト何事ナシとつぶやかまう。通す

はまそあんアムんとれを醫師ヒュウジきうちクニべ。公私コジと圓
らきの者ハタチとちとあうひる。もうる同七月七日。
曲ハシモト一家の醫師ヒュウジども。すくじみゆくスルクノ醫ヒュウジ
小役ヒサヅよひうす。一人とのうに寮シヤウにまうあつま
つて逍遙ハシモト。廳屋カミヤ乃丈カミヤうち肉スル。長筵リウをと
みうそ。うそとすくじめく。おのく一種イチの物酒カクをと
めてあそびう。ゆよのびくようともあそび。年カウと
ナハシモトうれ女ハシモト。喜トハシモトれ下シテるめもあそび。ま黄
の張單ハシモト。賤ハシモトの腰ハシモト。款ハシモトひま鈍ハシモトの縫衣ハシモト。水
をけうそ。一束ハシモトゆくとそれあが。

石舟はとくにひきして。麿乃もよ出まふ。終りうて
ト、おのしくてみづかすがゆきと向こ。
け、時女めづく。ひく時とよ六年にまろき
わ。うれを敵源よ内門さんとせすとも。片田舎
うねる身されば。せんせんよやくらべるを
あねば。さくとよ今日敵の二本わくあ
まくまと圓てまくとくあり。あらじどと活よど
うんやまとやわきよととと手と附わぬ。典
あくとよけかて。おもむかすかうとも。ほのいと
うそまうれはしきく。それへすれどもあらえ

とてやうにあそとゆゑの醫師をもじてうれえよと
うべ。其の醫師よりえてうれとあてうく。ふたす白
きうとく。既うそれをがくとてうらとばかと向醫師
りく。此下文字消ア
ミス連續 わくみあくび。うと麥シロのやう
かくみのわあく。うれとあくしゆ。バ綿ヤムとせ
あぐのよとべ。あくふをうきて麌ミヤマウサのねよ。老ヨモギはま
く。腰ヒダあもあぐして。じぬうう教ヤシタ乃。時ハタケつゑを
りあくねうう。わくアラカ七尋ヤシタハ身カラをうめうせう
れう。せう日ヒ裏ウラうねうて。御ミツのうれあくへ成
ぬ。頭カミようけうう。うぐの醫師カミヒサツと。憲カニト。達タマる



うるさき。まのうちあつて。ひなは何をう用ひ
ゆく。醫師がひそく。すゞ。薑茹湯と用ひか乃活
あそび。ひそそぐ。ややとて。ぐう。しりへ下鷦鷯
師の中へ。うふ病氣活療とくよのどもくん宵
けゆ。うりゆく。うりゆく也

六 女行醫師家活療述語

今じて典業。そ。ゆく。それと。醫師わづる。
せうすじたんも。うづく。人をみづくと用
ひ。うづく。あづく。もう日け典業。の。ゆく。ひ
く。紫束。うら女車。と。ひく。既これとみ。ばづれ

あくまでもうかづかべ。女郎といたつてやうり。女が
けふおなまえ家、どうからうめうきかまえ。車の
わから。時経様の名前をもつておれば。車の軸を
ども寄つて。牛うきそ花がざざひやうそまん。
女郎の下す。せんれい。女君へ様の名前はえと。
して房風のゆきぬくとく。うのとく。
ひよそて。それひよそくとく。うのとく。
またそりやがくわひととく。夜作とよとく。
女房たゞみへあく。あくとくとく。うのとく。
ひよそくとく。年のはじとナリ。ち

女房がうらつきようけ。因鼻緊ひつらまぞ。
あくびつやゆるゆるすき。縫ひたづぶ。せうる
りくくと長一。秀ひづぐ。そむきぬをうかう
さづくらひづらき。さくさくとよ。年ごろア株
やのゆふ。をとくよみじひいあう。頭くわを
見て。行おことくへ。れれ進退。けくうてう若
き。年ゑわ姫。り失く。と四年うきて。に事
なき。よのとじ。さん。つすやき。き。あうや。性じて。
蕙二つ。もぐらむ。おとこ。ちく
すらまみ。女の。つよ。ノ乃公の。うかく。もくまく。

夜晝。七百六十。療。とくによく。経。とくに
まくと。さして。まくと。ざくと。かいて。あくと。其のと
まて。まくと。ざくと。ざくと。かいて。あくと。其のと
をばやう。茶壺の黒。何。まくと。やあう。
摺。れ。る。物。鳥。れ。か。と。り。う。て。日。ま。ふ。う。まつ
く。ば。づ。く。金。く。ま。く。も。あ。び。く。う。う。う。
女。房。つ。く。い。の。う。わ。れ。ふ。あ。や。と。ち。く。ぬ。と。そ
ま。く。う。ひ。く。よ。禪。と。く。み。ま。う。べ。ま。う。れ。ば。ゆ。く
よ。し。萬。東。と。あ。く。う。ま。う。の。く。な。よ。う。せ。そ。れ。と。ひ
せ。え。や。ん。又。室。と。考。よ。ゆ。と。あ。ん。き。ど。つ。ぐ。

1
頭。今。四。百。六。十。か。く。て。房。ん。と。お。じ。て。あ。う。不
ど。ふ。タ。ぐ。れ。が。た。う。の。女。房。宿。直。物。の。房。綿。衣。一。を
つ。だ。う。と。そ。く。女。房。宿。具。一。て。う。づ。や。づ。く。う。銀
か。く。と。あ。び。タ。れ。合。物。ま。き。ん。と。盤。に。と。く
て。う。づ。く。わ。て。入。わ。る。め。く。ま。し。う。ま。う。く
き。ま。う。く。は。ま。う。く。ま。せ。わ。く。わ。と。や。ま。く。
合。物。を。ま。く。う。う。わ。ま。う。わ。く。わ。白。目。書。ま。く。と。が。
ま。く。う。わ。く。わ。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。
ま。く。う。わ。く。わ。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。
ま。く。う。わ。く。わ。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。と。や。ま。く。

わくとくにうわんとゆひて。おくれく何とせ
させり。屏風のじしろをくらふ。行い
くわんをりやうど。ちがうゆうふ。行い
い。うまくいのとくのとく。宿直物よどもの
着綿れ衣きぬうごううす。びへそれをそふ
あふううそうやうす。胸むねうごうて。せんうう
ちくねや。あうのましい人ひとあまくちくねくね
家いえぬぐるみそくば。頭かぶすまう女の義おとこ
さほ面おもて鏡かがうそそ。おくうれきとうごう
あ。ゆくぐくの妻めがどみくわうて。そひのう

ゆくくは。物ものいとまよとむのゆゆあいと
やまとつぶ。ゆくくうととみげうは。情じようよ。げう
もう思おもうて。本もとまくと。ごうじみ。何なんれれも
りうううや。くすくねくととくねうら。是い
をすうそ。教おとすととくねうら。因いんねはくつて。往くわ
きし。弟いとこの醫師しか。どもひ。ひくねはくつて。往くわ
みくねうら。ゆくくいきりそくがくこう
ある。世よの人ひとく。それと聞きく。まこと聞きれど。い
ゆくねうら。ゆくくいきりそくがくこう

せ 襲日僧長秀本ひ朝為醫師語

今ハレテ天鷦アマツシハシの湯アマツシハシ 村上ムラカミ 天皇アマツシハシ 小震コシキニ トウタマモチ

僧わうこう。名公長秀ショウスイ トクシソヒタ。桂ケイ も

を。あらえのがたそ。りや醫師ヒヤヒヤ おもべて。醫師
みよそして。ばうわれ。重シモ とれを。傍カタ うされば。
梵釋寺ボンセイジ の侍ベニシ 僧スケン とて。ひきよくばうわれ。
かくて年リ を経ヘ て後。長秀ショウスイ 桂宮ケイノミヤ はうこう。を
や。桂ケイ とロヒ。立條タツジ 玉御院タマミケイ 拾芥抄タツケイシヤウ 曰桂宮者
ノ桂宮ケイノミヤ トドア人トドアヒト やうゆ。其ナニ 事コト トス。桂ケイ
あわううね。ふすまフスマ とさうなり。長秀ショウスイ

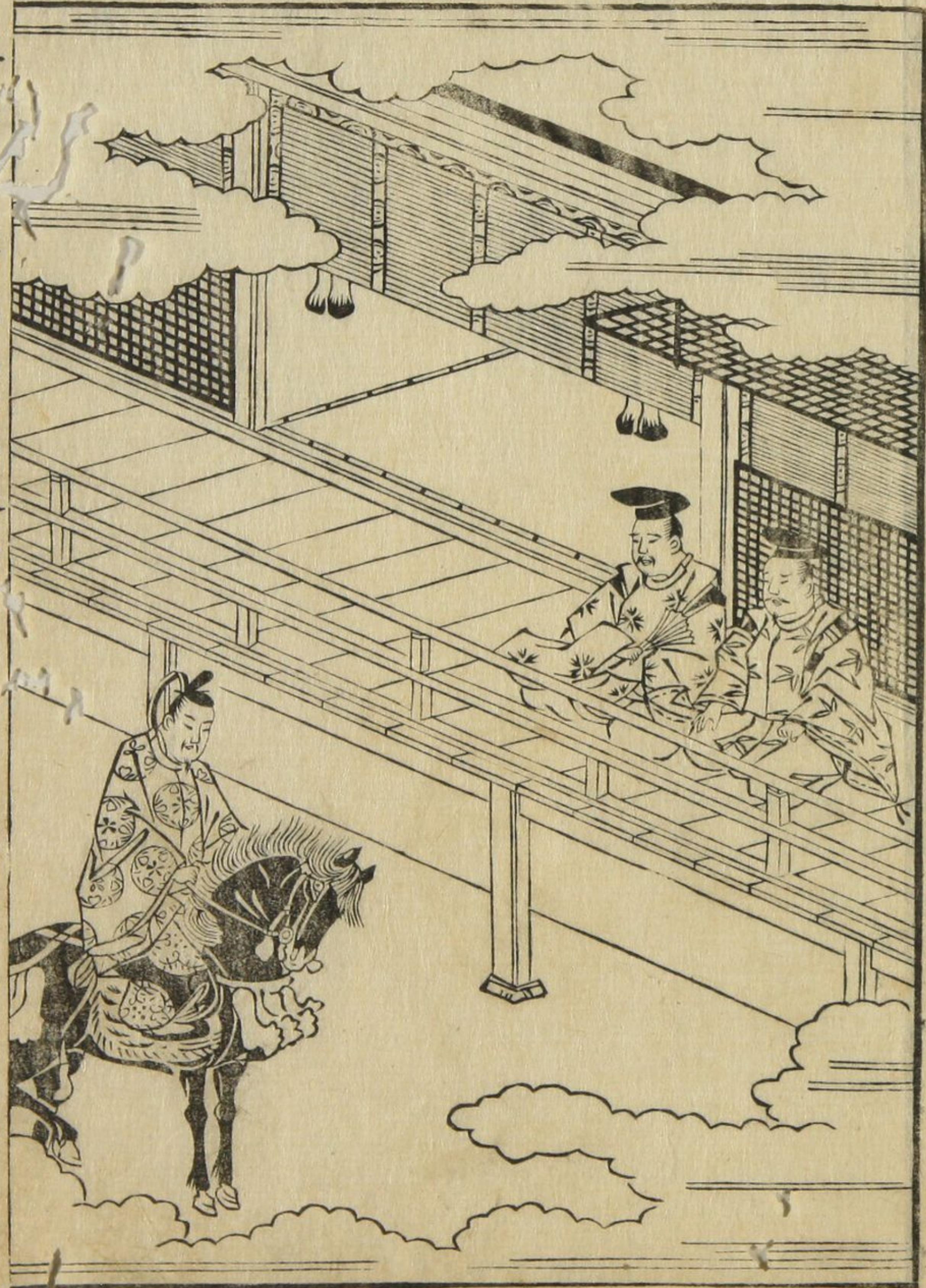
桂ケイ のまれと多公タカヒコ あまそひ。桂ケイ とくふ業ウタマ い。ば
圓カイ かと作アハシ て。人のよもんふくせ。うしろ作アハシ
とて。童タツ す公タカヒコ のがせて。もぐくの殺スル と。わら
やうととくへ。きよのがうて。切カツ やうり。と。せき
よもて。桂ケイ あうと。とくと。またうと。富ミツ たり。
まと。桂ケイ よほほく。桂ケイ ひ。圓カイ より。有ヨリ
を。アハシる。醫師ヒヤヒヤ と。アハシる。事コト に。情シヨウ と。係ヨリ
ちりと。長秀ショウスイ と。けく。あく。あく。とも。桂ケイ と
足アシ うと。桂ケイ はよ。人ヒト みを。と。ごと。て。あく。

長老へやんとされし醫師も。まお方ともれど。

やかやけよすうたうぶ。今れ宵も語つてくらむ也。

八 忠明活值亀者語

そへひく夏ごろよどみゆんと。巣口ども八省の
廊より出でけり。一人の滝口あまくにえじくさふ。
丙者とあめつゝわさぐやといひきれば。他乃滝口
どもこれを開く。ひとよだまゆり。もゆくどうぞ
すくべや口くれてあきれば。び滝口後者の男と
よじて。よくつひよちくはくへり。多くハナ西ぐう
しゆもあらんととよ経り。えくすりタミーきり。



滝はとほ廊にて物語りあひて居る程よ。雨
やまとをれりとびどりや酒りらかうと。日ひ暮
ふまでゆて。ゆくゆく男のこじりへ。ゆきゆ
きんとそばに事よりうきり。而と西よゆうる
滝口。左奥にて草原うづね。うちと後も男
うづね。滝口づねくらひて。豊羽あよううて。
人をはうりて。えでしづみ。道小歩川く歩く
つも滝口これとま。ゆきとてうきむす。息ひひま
きづく。すゑくべて。物とくとくとくとくとくと
行ふ。有えし滝口忠明院忠明者丹波氏從四位下
丹波介後漢靈帝後流丹

波宿称康頼孫丹波權守重明子
の幸とん作へ。うじはうじきと向。かのいりく。火燭
乃灰とやかく灰集め。其の男と灰の中れ埋う番
あ。おづくしてみてくられし。灰の中に男が埋ま
つて。お前のをくられまん。灰の中に男が埋ま
二時ごろと経くとふか灰うどんうべ。うさ
あきてよ。おのれ男例のをゆよ成されば。おのま
せあごして。おづくらつとくとく。うさうつと
とくべ。田つぐひく。昨日ハ翁の廊にて。作とある。
若翁。ごうれうアソヒ。神の面ヤクモと

九 内磨右大内家
内馬諸

今いひへ。内磨大納言。従二位号長岡。大納言真楯男。まづ
人へ。房前丈也。乃江綠大納言も。翁とす。人
乃江綠。身の才を。いざれくて。歎とす。人を
うござつ。やうやあは。まづまづして。さのえ
りとく。おそれて。心。豈か。やうじて。
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

いふ。さてやううかる。あうとこう。げたた年
ひまぐれくねく。さうは地戸宮とすにちよれ
うう。先仁第四皇子。白壁天皇。先仁天乃御子
うう。母井上夫人。白壁天皇。先仁天乃御子
うう。ひまの御子。白馬。あうて。人乃まんとする
うれめ。ふとくぬが。あくままで。う。ふ
う。地戸えり。やがえ。内齋。みけ。ふ
のうそ。やまく。まよ。内齋。かく。りふ
うまえを。ちく。まよ。内齋。かく。りふ
を。國人。やうわざれて。内齋。ひる。昨。宿。れで
う。せうひきんと。う。う。う。う。う。

まども内齋。膳。あゆ。氣。を。ま。ば。馬。の。ま
ま。ば。馬。の。み。く。け。と。に。得。ま。ど。ま。じ。く。難。我
ま。じ。く。難。我。う。ま。出。れ。と。ま。一。か。く。て。を。そ
ひ。ま。か。づ。く。て。元。ま。ひ。う。う。ま。ま。ま。ま。ま。
て。ま。じ。よ。ハ。ゆ。ま。を。ざ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ある。じ。く。ひ。う。ふ。人。ち。ん。や。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

今昔物語

平安六角通御幸町西入町

享保五庚子年孟春穀旦

柳枝軒葵城多左衛門壽櫻



